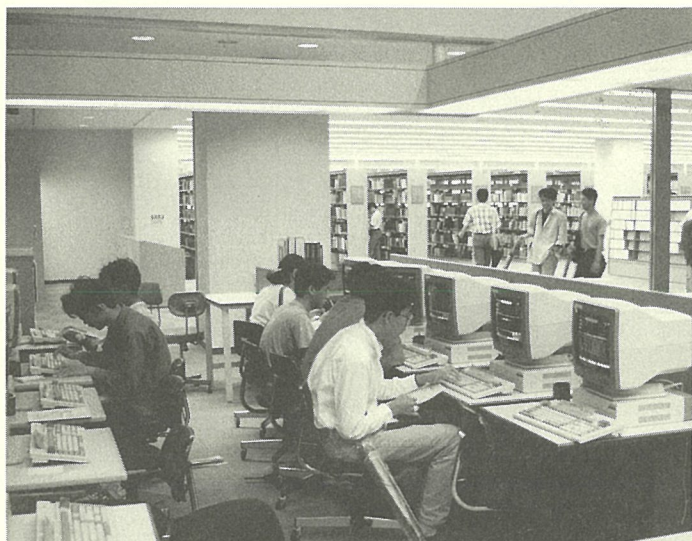


同志社大学 学術情報センター報



目次

CD-ROM入門	2
上手に使おう「逐次刊行物」	4
＜参考図書紹介＞	
日本統計索引編集委員会他編『日本統計索引』	6
＜参考図書紹介＞ 荒俣宏著『世界大博物図鑑』	7
お知らせ	8

CD-ROM入門

CD-ROMってなに？

皆さんご存知の音楽用のCDにコンピュータ用のコードデータを記録したものです。読み出し専用のメモリーとなっていますので、CD-ROM (Compact Disc Read Only Memory) と呼ばれています。その中には図書の内容がまるごと記録されていると考えたらよいでしょう。

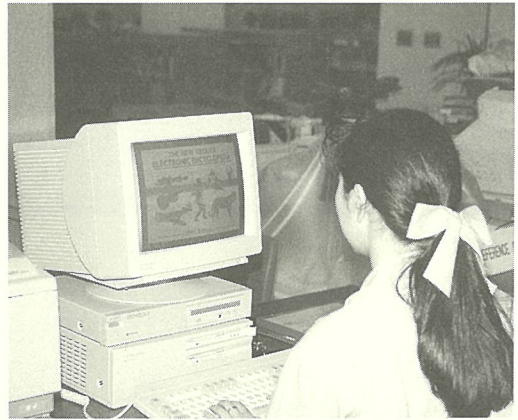
素材は音楽用CDと同じもので、ポリカーボネイト樹脂(プラスチックの一種)が使われています。そこにデジタル化された情報(データ)が凸凹の組合せとして記録されているわけです。情報を読み出すときはレーザー光線を当てて凸凹を読み取り、元のデジタル信号に変換します。磁気の影響を受けることはなく、記録面を傷つけることがなければ半永久的に使用できます。

一枚のCD-ROMに記録することができる情報量は約540MBです。これは新聞にすると約500日分、広辞苑だと20冊分に相当します。これだけのものが1枚の板に収まるので、持ち運びに便利だけでなく、収納スペースを大幅に節約することができます。これからの図書館資料として有力なものの一つと考えられています。

さてCD-ROMの利用ですが、音楽用CDプレーヤーを使うことはできません。一般的なパーソナルコンピュータおよびCD-ROMドライブ等が必要となります。また、個々のCD-ROMは特定の機種でないと使えないといったこともありますので、注意が必要です。

中身はどんなもの？

現在市販(出版)されているCD-ROMは、大量のデータを効率的に検索できるという特徴を生かしたものが中心となっています。例えば、辞書、事典、便覧、書誌・索引などの参考図書類、新聞・雑誌の記事、判例や統計といったものが多く出されています。すなわち、読むよりも調べるものが主流となっています。同じ内容の図書と比べるとCD-ROMでは桁違いに多様な検索ができ、検索スピードもほとんど瞬時ということができます。



CD-ROM検索風景

今、世界で5千タイトル弱のCD-ROMが市販されていると言われていますが、今後益々増加していくと予想されます。原稿作成、組版、製版といった図書の製作過程そのものがコンピュータ化され、その副産物としてCD-ROMがどんどん出されています。また現在では紙に印刷することなく初めからCD-ROMのみが出版されることも多くなっています。

利用はどうする？

現在利用することができる資料および近々入る予定の資料は右ページに掲載されていますが、これら以外のものも順次入れていく予定です。掲示等で確認してください。両校地ともほぼ同じものが利用できます。利用場所はレファレンスカウンター(またはコーナー)です。

検索は原則として利用者自身が行ないます。検索方法は比較的簡単なものが多く、少し慣れれば誰でも使いこなすことができるようになります。マニュアルも用意していますので積極的にご利用ください。分からないことは遠慮なく係員にお尋ねください。

利用料金は無料です。ただし検索結果をプリントする場合は1枚につき10円必要です。またダウンロード(検索結果を自分のフロッピーディスクに入れること)は無料です。

CD-ROMの将来

学術情報・図書館資料としてのCD-ROMの重要性は今後も増してゆくと考えられます。近い将来これなしでは学習・研究もおぼつかないといったことになるかもしれません。それだけにCD-ROMは様々な可能性や発展性を秘めていると言えるでしょう。

現在は単体のパソコンでCD-ROMを利用していますが、近い将来にはLAN (Local Area Network) を使ったシステムが一般的になると予想されます。CDサーバー (CD-ROMをまとめて収めておくジュークボックスのようなもの) を中央に置いておき、そこに多くのパソコンを接続して共同でCD-ROMを使うものです。メニューから自由に選んで即座に利用したり、1枚のCD-ROMを皆で同時に検索したりといったことが可能になります。

CD-ROMそれ自体は完結したものであり、内容が自動的に新しくなるということはありません。内容の更新が必要な時は新しいCD-

ROMと交換することになりますが、毎日新しいものが出るわけではありませんので、数ヶ月とか1年といった単位になります。そこで最新の情報が欲しい時、同じものがオンラインデータベースにあればそれを使うことになります。ただしオンラインは料金がかかりかきみみますので、少し古いところや適時的検索はCD-ROMで行ないます。これら両方をうまく使い分けていくことがこれからの賢い情報検索とすることができるようでしょう。

今後CD-ROMおよびその関連領域はさらに進化し、文字だけではなく音声や映像も自在に利用できるメディアとなるでしょう。マルチメディアと呼ばれるものです。現に下表で紹介している“The New Grolier electronic encyclopedia”では、有名人の写真や声、動物の鳴き声といったものを視聴できるようになっています。21世紀にはマルチメディアが図書館の主力になっているかもしれません。

CD-ROM所蔵リスト

[1] 外国語資料

Social sciences index.

社会科学分野の英文雑誌文献を中心とした記事・文献索引。収録は1983年から。毎月更新。

Humanities index.

人文科学分野の英文雑誌文献を中心とした記事・文献索引。収録は1984年から。年4回更新。

The New Grolier electronic encyclopedia.

英文の百科事典。約3万項目、約1000万語。

The Bible library.

英文の聖書(8種)。原典の音訳表示。関連刊行物(20種)。

The Oxford English dictionary. 2nd ed. (*)

世界有数の英語辞書。50万語と140万の用例を収録。本巻全12巻と補巻6巻を統合。

Shakespeare. (*)

シェイクスピアの全作品を収録。あらゆる単語、フレーズから検索できる。

[2] 日本語資料

リーガルベース 全判例要旨(*)

最高裁発足後の全審級、全分野の代表的判例の要旨。大審院時代の主要判例も入っている。人名、事件名、キーワード等22項目から検索できる。年2回更新。[当面今出川校地図図書館のみ]

電子広辞苑 (第4版) (*)

見出し語のみならず説明文中の言葉からも検索可。さし絵、色彩見本、鳥の鳴き声等も視聴できる。

NHKできごとCD-ROM (*)

「NHK放送データベース」をもとにした、戦後の主な「できごと」(政治、経済、事件等)についての記録や年表。写真、実況録音も収録されている。

岩波電子日本総合年表 (*)

「近代日本総合年表 第3版」(1991)と「日本文化総合年表」(1990)をひとつにまとめたもの。

世界大百科事典 (*)

平凡社の同名事典のCD-ROM版。図や表も収録。

(*)は近日提供予定

上手に使おう「逐次刊行物」

図書と逐刊(ちっかん)の違い

図書館の資料(文献)は、「図書」と「逐次刊行物」(Serial Publication、以下「逐刊」と)からなる。

逐刊は、同じ標題で継続して出版される。巻号、年月日の順に、号を逐(お)って刊行され、終刊を予定しない。

それに対して、たとえば「現代作家選集」があるとして、「第1回：吉本ばなな」であるが「第5回：干刈あがた」が次に出て、しかも全20巻と全体が予定されているとすれば、これは単行書(図書)である。

逐刊は、雑誌、紀要、新聞・官報類、年鑑類、会議録、学会論文集、Serialパンフレット等の形式に区分することができる。

田辺と今出川

両校地の図書館とも以下に述べる逐次刊行物を提供している専用の閲覧室がある。ラーネッド記念図書館は「参考図書・雑誌室」、今出川校地図書館は「参考図書室」および「雑誌室」である。

ここでは今出川校地図書館(以下「図書館」)の逐刊をご紹介しますことにしよう。

利用頻度の高い逐刊は、自由に閲覧できるように開架式書架にある。といっても、いわゆる「開架閲覧室」には置かず、雑誌・新聞の類いは「雑誌室」に、そして、年鑑・白書・統計などは「参考図書室」に置いてある。なお、百科事典・辞書・ハンドブックなど(=図書)もいっしょの書架にならべてある。

雑誌室

雑誌は新しい研究成果やニュースを速報するという点でも図書と大きな違いがある。「雑誌室」の新刊展示棚は、常に最新号が並べられている。そのタイトル数、実に556。身近な週刊誌から総合雑誌、学術雑誌、専門誌が、人文・社会・自然の三分野に展示してある(誌名アルファベット順)。本学の目録には載せていない雑誌もあるから(The 21、よむ、就職ジャー

ナル、etc.)、授業の空き時間などに、是非一度のぞいてみてほしい。

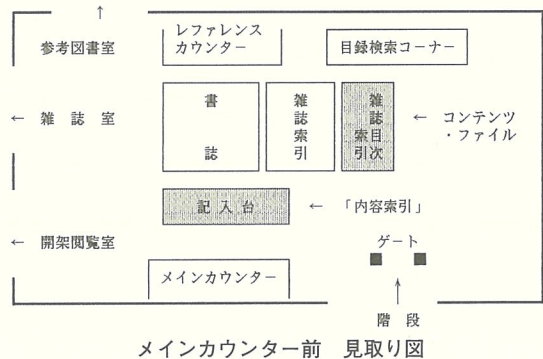
バックナンバーの利用

去年までの分は合冊・製本して「雑誌室」入り口付近の書架に請求記号(日本十進分類法などで分類したもの)の順に並べてあり、自由に利用できる。ただし、これは図書館所蔵のうちのほんの一部に過ぎない。よく利用されるタイトルを原則として10年分オープンにしているだけ(233誌、主要新聞7紙を含む)。閉架書庫には、8千を越すタイトルが納められて諸君の利用を待っている。また、今年の方はまだ製本されずに事務室内のファイルに保管してある。

自由に手にとって見られない号があったら、所蔵状況を「DOORS」で検索し、所定の請求票(ブルーの「逐次刊行物」用)にてカウンターへ申し込むこと。

コンテンツ・ファイル(雑誌目次索引)

利用したい雑誌の巻号がはっきりわかっている場合は問題ないが、論文名があいまいだったり、掲載された巻号がここ数年のどこかわからないとかいう場合、大いに利用してほしいのが、コンテンツ・ファイルだ。これは、やはり利用頻度の高い300以上の雑誌の目次を最新号まで逐次コピーしてファイルしたもの。新聞(朝日、読売、日経、京都など)の目次索引も、雑誌のコンテンツ・ファイルと同じく、ゲートを入れてすぐ前方の低書架に並べてある。



内容・特集検索

「東洋経済の〇〇特集が見たいが、何号に載ったのかわからない」などという場合に便利なのがこれ。メインカウンター前のガラス製記入台に常置している。「主要雑誌の内容索引」や「主要雑誌の目次事項」と題して、誌名→特集内容、逆引きのものがある。収録雑誌は約60誌。1990年版から作成して利用に供している。

参考図書室

ここにはいわゆる「参考となる図書」類が並んでいる。冒頭でも触れたように、「図書」と「逐刊」が同じ書架に請求記号順に並べてある。やはり最近数年分しか出してないので、バックナンバーについてはカウンターにて請求すること。なお、この部屋を談話室と間違えている学生も残念ながらいろいろいるようだが、他の利用者のためにも静かに利用してほしい。

所蔵状況の把握

自分の見たい号がオープンの中架棚に無い場合、図書館に所蔵しているかどうか調べる必要がある。タイトルが正確にわかっている場合は冊子目録を繰ってもよいが、オンライン検索のほうが最新の情報が得られる。

雑誌・新聞そして年鑑類、判例集などは、すべて逐次刊行物として「逐刊」のデータベースには入っている。和書（日本語・中国語で書かれたもの）、洋書（それ以外の言語で書かれたもの）の別はあるが、田辺校地をも含んで全学一本で調べられる。

オンライン検索

ワード(単語)で検索するのは「図書」と同様。ただし、逐刊は、同じワードをタイトルに含むものが非常に多いため、なるべく固有・特有なワードからキーインしていくと早くヒットする。また、タイトルが「紀要」などの場合、「出版者」にそれを出している大学名を入れてやると良い。

洋書などは、綴りがあいまいであったり、ワード入力中のタイプミスも多い。こんなときには、「*」(アスタリスク)を使った前方一致検索を行うとよい。使い方によっては、前方一致検索

の方が効果的な検索となることもある。これは和書でも同じことである。使い方については端末機の横にマニュアルが置いてあるので読んで欲しいし、わからないことは係員にどんどん聞いて欲しい。

所蔵データの確認

うまくヒットしても、オンライン検索の最初の画面の、誌名＝「標題関連」と「巻次年月」だけを見て請求してくる人がままいる。「巻次年月」とは、その逐刊が何巻何号(年月)から出版を始めたかという情報であって、それイコール図書館所蔵ではないことに注意してほしい。所蔵データは「所蔵」キー(PF2)をたたいて表示させる。ここで初めて、所蔵している場所(部科名)や該当する巻号の有無までが明らかになる。

図書館の所蔵が確認できたら、今までの説明に従って、どこに置いてあるか見当をつけて自分で探してみよう。カウンターに請求される雑誌では「雑誌室」にあるものが大変多い。請求票の記入は、分類・記号・(利用したい)巻号そしてタイトルをはっきり書いてほしい。

また、本学に所蔵の無いものでも、他大学等にコピー依頼できるので、カウンターに相談するとよい。

やってみよう！

駆け足で説明したのでわかりにくい点もあったと思う。そこは、カウンターやレファレンスの係員に気軽に尋ねてほしい。一見こわそうだが、きっと丁寧に教えてくれる。また、キーボードには触ったことがない人もコンピュータ検索を試してみよう。誰にも「初めて」がある。やってみなければ「始まり」すら生まれない。

「DOORS」とは本学のオンライン目録検索システムの愛称。どうぞ、このドアをたたいてほしい。何回かトライするうちに慣れてくるもの。習うより慣れろ、である。そして、「図書」と「逐刊」を上手にを使って、より充実したLibrary timeを過ごしてほしい。

〈参考図書紹介〉

『日本統計索引』

日本統計索引編集委員会 編
河島研究事務所

日外アソシエーツ、1975年刊

読書中や論文作成中に統計数値が知りたいと思った場合、どのようにして探していますか。例えば“国民総生産(GNP)がどう変化して行ったのかを過去10年分の数値で見たい”というような場合、どうして探しますか。経済関係の統計書を順々に見ていくのも一つの方法ですが、この様な場合「日本統計索引」を利用すると求める統計数値がどの統計書に載っているかわかります。「日本統計索引」は統計資料に基づく細目索引を提供することを意図して作成され、特定の統計がどの資料に載っているか、つまり統計の所在を案内する索引です。索引対象資料は指定統計調査、各省庁の統計年報・要覧、民間機関の主要な二次統計資料など144種、540冊、それらに収録されている統計表24,079表を対象としています。索引語は統計表の表題、表側に用いられている語に若干の調整を加え、約1万語を索引語(見出し語)としてあり、これ等の見出し語を利用することにより統計が得られるように考えられています。「日本統計索引」の出版年は1975年と少し古いのですが、統計資料は継続して出版されるものですから、新しい項目以外はこの索引で十分利用できます。

実際に国民総生産(GNP)を「日本統計索引」を利用して探してみましょう。

索引語として“国民総生産”と“GNP”が考えられますので両方で探してみましたが“国民総生産”のみが索引語として右表のように掲載されていました。

これにより国民総生産総額が知りたい

のなら、

「環境」=環境統計要覧

「東年」=東洋経済統計年鑑

などの資料を、一人当たりの国民総生産総額が知りたいのなら、

「統月」=日本統計月報

を、主要国の国民総生産総額が知りたいのなら、

「経月」=経済統計月報

「生活」=国民生活統計年報

を見れば良いことがわかります。この他にも、経済指標の中の主要指標として国民総生産を掲載している資料に、

「経要」=経要要覧

「家年」=家計調査年報

などがあることがわかります。掲載資料名は、いずれも略称で表示されていますので正式書名を略称表で調べ、それが同志社大学で所蔵しているかどうかをオンライン検索、または冊子目録で調べて利用してください。

なお、「日本統計索引」編成の際に割愛された外国関係統計の分をとりまとめた「日本統計索引・補遺：国別・地域別編」もあります。

(田 辺：参考図書室 請求記号350.31;ニ)

(今出川：参考図書室

本編 請求記号028.351:N(1)

補遺 請求記号028.351:N(S)

国民総生産	
国民総生産総額	環境 2-3-1-1; 東年-国富-1; 労要 4; 科要 9-1
国民所得; 資本減耗引当; 間接税; 経常補助金(控除); 統計上の不突合	運要-付録; 経年169-1; 経要-所得; 通要1-2; 統月16-1; 統年323-a; 東年-国富-3;
	日統 331
1人当たり国民総生産額	統月 16-1
主要国の国民総生産額-国別	経月132; 生活260; 生活261; 通要19-1; 東月-世界; 東年-世界-2; 科要9-17
◆経済指標-主要指標	経要-主経-早見; 経要-主経; 経要-経計; 家年-主要; 科要9-16-1; 科要9-16-1
◆経済指標-主要指標-国別-アメリカ	東月-世界; 東年-世界-27
◆経済指標-主要指標-国別-イギリス	東月-世界; 東年-世界-30
◆経済指標-主要指標-国別-運輸関係	運要-外統
◆経済社会基本計画-昭和52年度における経済・社会予測-経済予測	経要-経計
◆経済社会基本計画-昭和52年度における経済・社会予測-国民総支	建要-事計
出-国民総生産昭和40年価格	建要-事計
◆経済社会基本計画-昭和52年度における経済・社会予測-国民総支	建要-事計
出-国民総生産時価	建要-事計
◆経済社会基本計画-昭和52年度における経済・社会予測-社会資本	建要-事計
の水準	

『日本統計索引』(541ページ)より転載

〈参考図書紹介〉

『世界大博物図鑑』 (全5巻)

荒俣 宏著 平凡社, 1987-1991年刊

(1)昆虫類編 (2)魚類編 (3)両生・爬虫類編

(4)鳥類編 (5)哺乳類編

地球の環境保護は今や人類最大のテーマとされています。騒音、大気汚染、河川の汚れ、ゴミ処理、熱帯林破壊、地球温暖化、など環境に関する問題は多様です。環境や自然を守るためには環境保護や自然保護思想の啓蒙が必要で、自然のすばらしさに率直に感動する多くのナチュラルリストが生まれなければなりません。

本書は、古代から現代にいたるまでの人と生き物の交流を、生物の名の由来、博物史、発見史、絶滅記録、神話・伝説、民話・伝承、諺、天気予知、美術、文学などにたずね、集大成したものです。

第4巻「鳥類編」のまえがきで著者は、

ナチュラル・ヒストリーは目的的事物と対峙するよりもむしろ雑多な他のものと格闘するほうに多くの時間を費やす。だから〈博物学〉という訳語がいい。すなわち、生物学は、対象を狭めていくけれど、ナチュラル・ヒストリーは対象をかぎりなく殖やしてゆく。その証拠に、せっかく博物学でリストに加えた生きものが、生物学の一分野としての動物学によって非情にも削りとられた例は数多い。

と述べ、本書の性格を〈存在を殖やす学〉＝〈博物学〉と規定しています。

したがって、「鳥類編」をみても、扱われている〈トリ〉は自然誌の中の鳥だけではなく、文化誌の中の鳥をも含めています。スズメやダチョウにはじまり、アラビアンナイトでシンドバットを謎の鳥から救い出す「ロック」、インドネシア航空のシンボルマークに採用されている「ガルダ」、「鳳凰」、「大鵬」など架空の鳥にまでおよんでいるのです。

スズメだけに関してみても、自然誌だけでは

なく文化誌まで範囲がおよび、「実」のスズメ、「絶滅」したスズメ、「虚」のスズメ、つまり、語られ描かれたスズメのすべてが対象となっています。

「虚」のトリとされる「鶴」(ヌエ)の項目をみると、「頭は猿、胴は狸、尾は蛇、手足は虎」のような姿をし奇怪な怪物とされ、分類不能であるはずの「鶴」が、『古事記』・『万葉集』など古歌にあらわれるヌエはトラツグミの古名である。「源頼政が退治した怪物は声がヌエに似ていただけで、正確には鳥ではないが、逸話が有名になったため、後世この怪物がヌエとみなされるようになった。」などと説明され、ツグミのなかまとして分類系列上に配置されています。

この「実」と「虚」の両方を等しくとりこんでいる「世界大博物図鑑」は、科学でもなければ文学でもありません。その両方が分化する以前の知の体系となっているのです。

載録されている彩色図版についても、カラー図版により18-19世紀ヨーロッパで制作された黄金期の傑作博物画が1巻平均約1000点、さらにそれに劣らぬ数の和漢奇書の図版が収録されています。このことにより、この図鑑は著名図譜の巨大な宝庫ともよべるものになっています。

しかし、殖やした「存在」を楽しんでばかりはいられません。著者が「世界中の全生物がたとえ絶滅したあとも、なお有効性を持続する窮極の博物学書とよんでもいいかもしれない。」と述べていますように、「虚」の動物を殖やすこの図鑑はまた、今世紀までの動物の「発見」から「絶滅」までの記録ともなっているのです。すなわち、「虚」の動物の増殖が「実」の動物の絶滅に比例している絶滅の博物図鑑なのです。

21世紀を迎えようとしている現在、海も空も汚れ地球環境およびそこに生息する生命は危機に直面しています。そして、その究極の原因は「ヒト」という生物自身の中から生み出されてきたのです。「哺乳類編」で巻頭に「ヒト」の項目を持つ美しい図版で飾られたこの図鑑が、その「有効性」を発揮する時がくるのでしょうか。

(田 辺：参考図書室 請求記号480.38;A)

(今出川：参考図書室 請求記号480.38;S2)

〈お知らせ〉

◆DIALOGや国文学研究資料館のデータベースに接続

ラーネット記念図書館および今出川校地図書館は、世界最大のデータ量を誇るアメリカのデータベースDIALOG(ダイアログ)に加入しました。国内では、国文学研究資料館のデータベースにも接続しました。国文学研究資料館のデータベースはすでに利用を開始しております。DIALOGは近々提供予定です。

これらのオンラインデータベースは、本号2～3頁でご紹介しましたCD-ROMとともに新しい情報メディアとして今後の普及が予測されている媒体です。多くの方が利用されることを期待しています。なお、データベースの接続料金等は有料です。データの内容や利用上の詳細は、各校地の図書館カウンターでお尋ねください。

◆拡大読書器を設置

今出川校地図書館では、弱視の方のために拡大読書器を設置しました。拡大読書器は、辞書や地図などの細かくて小さい文字や図を読むのにも便利です。参考図書室内に設置してありますので、自由にご利用ください。

◆遡及入力事業の進展状況

図書のオンライン検索をする場合、1964年度から1981年度に整理したものはデータベースに入っていないので、目録カードで資料を探していただいております。本学では、未入力分のオンライン検索もできるよう、昨年度から遡及(そきゅう)入力を始め、本年9月末現在で約53万タイトルの図書資料等が検索できるようになりました。今後も引き続き入力をして行く予定です。

◆年末年始および入試期間中の休館(室)等について

学術情報センター内の図書館、視聴覚室および計算機室は、冬期休暇中の年末年始期間(12/28～1/6)および入試期間中(2/3～2/8)は休館(室)いたします。

また、創立記念行事週間や学年末試験終了後など、開講日以外の開館(室)時間を変更することがあります。

詳細は、学術情報センター各施設の掲示板等にご注意ください。

同志社大学学術情報センター報 No. 4

1992年11月2日発行

編集・発行 同志社大学学術情報センター総務課

〒602 京都市上京区今出川通烏丸東入 ☎075-251-3960
